

工事が進む東京外郭環状道路



# 一般質問

9月定例会では、32人の議員が一般質問を行いました。質問の持ち時間は答弁を含めて1人60分です。ここでは紙面の都合上、1人1項目を選び質問・答弁を要約し、ジャンルごとにまとめて掲載しました。

<会派の略称>

社民・市民=社民・市民ネット

## 街づくり

### 下水道の整備

**松戸、市川両幹線区域の供用開始は一部は27年度 以後も早期整備図る**

岩井清郎議員(みらい)

平成27年度の供用開始に向けた外環道路と都市計画道路3・4・18号の整備と併せて下水道幹線の整備が

力年で、松戸幹線については約15ヘクタール、市川幹線については約28ヘクタールを整備し、残りの地域については28年度以降に事業を進める計画である。枝管の先行整備は補助金減額により財源が確保できず困難であるが、国や県と協議し、早期に下水道普及が図れるよう取り組んでいく。

### ザ・タワーズウエストの風害

**いまだ解決せず 市の認識と対応は植栽育成見守りつつ他市事例も研究**

高坂 進議員(日本共産党)

市は、ザ・タワーズウエスト周辺の風害に植栽工事に対応しているが、解決していない。被害状況を認識

被害状況は概ね把握している。強さという面では効果十分とはいえない部分がある。植栽の育成は気象条件に左右されるため期間の算定は難しい。また、ビルの影響が明確でないことから補償はできないが、今後も育成を見守りつつ、風を緩和する視点で他市事例の研究等も行っていく。

### 空き家対策

**良質な空き家 どう活用する敷地活用や借り上げ支援等を検討**

清水みな子議員(日本共産党)

空き家等の適正管理条例が公布され、市にも問い合わせ等が増えていると思いが、その中には、活用可能

な空き家も多くあると考える。平成25年1月の条例施行を見据え、25年度に向け、市ではどのような活用方法を具体的に検討しているか。答 条例には良質な空き家の積極的な活用を念頭に置く規定もある。現在、老朽化した家屋の所有者から寄付を受け、市で解体し敷地を活用することや、「マイホーム借り上げ制度」の窓口として空き家の活用を支援する等の方策を検討しており、空き家の有効活用と管理不全となることの未然防止を図りたいと考えている。

### 上・下水道の老朽化

**安全安心のため維持管理どうする 長寿命化計画策定 管理効率化も図る**

中村義雄議員(公明党)

多くの上・下水道管が老朽化し、破損に伴う断水や水質汚濁、道路陥没等のリスクの増大が懸念されている。市はどう考えているか。

市民の安全安心を確保するため適切な維持管理を行う必要があるが、財政難の中、上・下水道の長寿命化、耐震化対策について、市はどう考えているか。答 市としては、上水道は県水道局により適切に維持管理されていると認識しており、公共下水道については、菅野処理区の長寿命化計画を策定し、国の補助を活用した延命対策を実施すると共に、下水道台帳の電子化を図る。アセットマネジメントは将来的に移行するのが望ましいと考えている。

## 道路交通

### 東京外郭環状道路

**受け入れ時の要望実現 強く主張せよ 市長先頭に関係機関に働きかける**

佐藤義一議員(民主・連合)

外環道路のスタートは公害道路であった。当初、本市を分断する道路計画に市は反対だった。その後、道

路建設に合わせた街づくりや環境に関する事項等を要望して受け入れた経緯がある。全ての実行は無理でも、都市基盤について、時機を失せず、関係機関にも働きかけていく。

### コミュニティバス南部ルート

**愛称とデザインの募集 結果は「わくわくバス」 10月運行目指す**

青山博一議員(新生市川)

コミュニティバスは、市民にとって大事な交通手段である。南部ルートでは、路線バスと同色の車両で運

行され、高齢者にはわかりにくい。また、子どもたちからも、浦安市のバスを羨む声がある。市でバスの愛称とデザインを募集した結果は、どうなったのか。答 コミュニティバス南部ルートでは、市民によりわかりやすく、愛着を持ってもらうことを目的に、愛称と車体デザインの募集を行った。その結果、150点の応募の中から、ハートと星をモチーフにしたデザインと愛称「わくわくバス」が選ばれた。平成24年10月からの運行を目指している。

## 街づくり

### 国府台緑地の保全

**地域からの要望 市はどう考える 関係者の相互理解深め活動進めたい**

宮田かつみ議員(自由民主党)

国府台緑地の保全に関して、地域から市へ要望書が出された。これは、ボラ

伐等に行き過ぎがあり、市も将来の緑地の姿を考えて作業にも関わってほしいとの趣旨である。地域の人は、今まで通りの国府台緑地であってほしいと願っている。これら要望事項に対する市の認識を問う。答 今回の要望は、ボランティアの活動内容について地元への周知が十分でなかったことが原因と考える。里山保全には計画的な維持管理が必要なので、今後はボランティア、地域と三者で理解を深め協働する保全活動の仕組みを検討する。

### 建築物の高さ制限

**検討に当たり住民意見聞いているか 多くの賛同得るよう慎重に取り組み**

荒木詩郎議員(みらい)

市は、建築物に高さ制限を設ける制度を検討しているが、これには慎重な検討が必要と考える。高さ制限

が実施されれば、現在の高層棟は既存不適格扱いとなるが、地域では老朽化しつつある団地をより高層に建て替えるという住民の意向もある。検討に当たり、住民の意見を聞いて対応しているのか。答 案の検討に当たっては住民の意見も聞いており、反対意見もあるが、今後一人でも多くの賛同が得られる方策を模索している。緊急性の高い地域を優先する等、地域単位での規制も視野に入れ、慎重に取り組みでいきたいと考えている。